

柔道整復実技Ⅲ（上肢②）		実習	准教授 伊藤 新	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371202	

1. 授業のねらい・概要

柔道整復実技Ⅲ（上肢②）では、臨床柔道整復学Ⅲで学んだ知識を実技で実践する。肩周囲から前腕骨骨幹部までの骨折および脱臼の評価法や整復法、固定法などの目的や意義を理解し、実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. 橈骨遠位端部伸展型骨折（コットンローダー肢位での固定法）	9. 中手骨骨幹部・基部骨折
2. 橈骨遠位端部伸展型骨折（シュガートング固定）	10. 基節骨基部骨折
3. 橈骨遠位端部屈曲型骨折	11. 基節骨骨幹部骨折
4. Barton 骨折・Chauffeur 骨折	12. 末節骨骨幹部骨折・中節骨骨折
5. 舟状骨骨折	13. マレットフィンガー
6. 有鉤骨鉤部骨折	14. 手部・指部脱臼
7. Bennett 骨折	15. まとめ（臨床の現場でよく用いられている治療法と国家試験によく出題されるポイントを解説する）
8. 中手骨頸部骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各外傷の受傷機転や症状、治療法、合併症を運動器疾患ワークブックを中心に学習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷の評価法や、整復法および固定法を実践し、その目的と意義を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（レポート）の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②運動器疾患ワークブック 医歯薬出版
- ③必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス、指輪、ネックレス）ははずすこと。
- ④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。